

北九州市文化振興計画における取組みの概要

資料1

1. 北九州市文化振興計画(H28改訂)における取組みの概要

施策	施策の基本的考え方	取組方針	取組事例
施策1 市民の文化芸術活動の促進	年齢、性別、障害の有無、国籍等にかかわらず、幅広い層の市民が参加する、生活に根ざした文化の振興を市民や企業などと協力しながら実施する。	① 市民が行う文化芸術活動への支援・協働 ② 文化芸術に係る表彰 ③ 文化施設の充実及び活用 ④ 文化施設の維持管理と今後の在り方	・文化芸術活動を行う団体・個人への助成、文化芸術活動総合相談窓口の設置 ・市民文化表彰により地元ゆかりの文化人を顕彰 ・美術館や若松市民会館等の大規模改修
施策2 市民が文化芸術に接する機会の拡大	各文化施設や日常生活の中で、多様な文化芸術に接する機会や交流の場などの充実を図る。	① 文化芸術を提供する事業の実施・支援 ② 広報のあり方、レポーターやファン等の獲得 ③ 県や近隣自治体との広域連携	・魅力ある企画展や公演の開催 ・北九州芸術劇場及び響ホールの特典付き会員制度 ・芸術文化情報サイト「かるぽー」開設 ・福岡市の美術館・博物館と相互に友の会割引
施策3 発信力の高い文化芸術の振興	幅広い分野で、地域活性化のけん引力となる、北九州発で発信力の高い文化芸術の振興を図る。	① 劇場文化の創造 ② 「文学の街」の施策の推進 ③ 「合唱の街」など音楽文化の振興 ④ 漫画や「映画の街」の施策の実施・支援 ⑤ 自然史・歴史施策の充実 ⑥ 美術文化の振興	・劇場オリジナル作品や知名度のある劇団の上演 ・林芙美子文学賞、子どもノンフィクション文学賞等 ・合唱イベントや北九州国際音楽祭の開催 ・北九州国際漫画大賞、国内外からのロケ誘致 ・博物館の展示リニューアル、セカンドスクール事業 ・小学生向け美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」
施策4 文化芸術の担い手の育成	将来の文化技術を担う子どもの豊かな心や感性・創造性を育むため、子どもが身近に文化芸術等になれる機会を充実させる。	① 人材育成に係る事業の実施 ② 文化芸術の専門家を目指す人材の育成 ③ ボランティアの育成	・音楽や伝統文化等に触れる子ども文化ふれあいフェスタやアウトリーチ、インリーチ事業 ・北九州市少年少女合唱団、北九州市ジュニアオーケストラ ・美術館・博物館等で案内や講座補助ボランティア育成
施策5 地域における伝統文化の発掘・継承	長い年月をかけて受け継がれてきた地域に根ざした固有の祭り、伝統芸能などの伝統文化を発掘し、次代に継承する。	① 「戸畑祇園大山笠行事」の1830無形文化遺産への登録 ② 伝統文化の保存・継承 ③ 伝統文化の公開	・「戸畑祇園大山笠行事」の1830無形文化遺産登録 ・「小倉祇園太鼓」の重要無形民俗文化財指定 ・指定無形民俗文化財保存団体への助成
施策6 近代化遺産など文化財の保存・継承	郷土の歴史と文化に対する理解を深め、郷土愛を育むために地域文化を保存・継承していくことを目的に事業を実施する。	① ユネスコ世界文化遺産 ② 文化財の保護、適切な管理 ③ 文化財の積極的な情報発信・活用	・指定文化財や説明版等の文化財パトロール ・「関門“ノスタルジック”海峡」の日本遺産認定、日本遺産フェスティバルin関門 ・文化財出前教室や市民考古学講座の開催
施策7 文化芸術によるまちづくり	文化芸術を担う市民やアーティスト等が集まる環境の整備を進めるとともに、文化芸術の持つ力を地域経済、教育、福祉などに生かし、創造的なまちづくりを進めていく。	① まちのにぎわいづくり ② 2020年東京大会に向けた文化プログラムの検討 ③ 創造都市への取組み ④ 文化芸術で推進するこのまちの方向性	・ポップカルチャーを活用したにぎわいづくり(北九州ポップカルチャーフェスティバル等) ・東アジア文化都市北九州2020▶21、中韓との交流や地元アーティストとの協働によるレガシー事業

2. 文化芸術を取り巻く主な課題と今後の方向性

主な課題	今後の方向性
①次世代の育成 ・人口減少や少子高齢化に対応していくため、次世代の担い手を育成する必要がある。	子どもや若者が文化芸術に触れる機会の多元的な創出による、次世代の育成 ・学校へのアウトリーチなど、子どもや若者が文化芸術に興味をもつきっかけを創出する ・地域の伝統文化を将来につなぐ、次世代の担い手の発掘と育成に取組む
②施設の老朽化と有効活用 ・文化施設は築30年を超えるものも多く、老朽化が進行している。 効率的に施設を活用するために、多目的なニーズを捉える必要がある。	デジタル技術等を活用した、インクルーシブな文化芸術の推進と積極的な施設の多目的な活用 ・オンラインを活用して、ハードに依存せず誰もが文化芸術に触れることができる、インクルーシブな取組みを推進する ・施設の立地や特別な空間を活かし、観光やイベント等へ多目的に活用することで、多様なニーズを捉え有効活用する
③持続可能性の確保 ・時代環境の変化や厳しい財源状況に対応していくため、文化芸術の持続可能性を高める必要がある。	地域の文化資源を活用した経済の好循環を生み出すことによる、持続可能性の確保 ・質の高い文化芸術やエンタメ、ナイトタイムエコノミーの創出により人を呼び込む ・小倉城や多彩なミュージアム、食文化など、地域ならではの資源を活かした文化観光を推進する